



©うえもんくん

史料から学ぶ戦国時代の西伯耆

12月の江美城を探る会の講座では昨年の6月に続き、元県立公文書館県史編纂室長の岡村吉彦先生を講師にお迎えして「戦国時代の西伯耆と尼子氏・毛利氏」について学びました。

★尼子氏西伯耆進攻について

「大永の五月崩れ」とは、一般に大永4年5月中旬、伯耆の主要な城を尼子経久軍が短期間で攻め落とし伯耆を尼子の領地とした…とされています。この“5月中旬”と記載されているのは「伯耆民談記」のみで「古老の言い伝え」※とあり、それ以前に発表されている「安西軍策」・「陰徳記」（1660年）、「陰徳太平記」（1695年）の3記には「大永四年正月中旬より伯耆へ…」と記載されています。

もう一点、伯耆が短期間で崩されると表現されていますが、実際には尼子経久・孫の晴久と二代に渡り、また一方大内氏とも戦いながら約40年を経て段階的に進攻した…と前の3つの軍記物より読み解かれています。

★尼子・毛利との戦いと国人（水軍・村上氏）の役割

伊勢参りが流行っていたように西伯耆も大山参詣等で尾高（城）を中心とした尾高道（尾高から淀江、日本海、出雲へ行く道）がすでにできていました。『伯耆志』によると1550年日野川は洪水にあい、佐陀川から淀江・日本海への流れが岸本から米子方面への流れもでき、複数の川の流れがあったのです。

毛利勢が優位になると国外にいた毛利方の村上氏等は淀江の港・水軍として働き、「兵糧留」・「塩留」※など国人村上氏の活躍により毛利方は優勢になっていきました。（国人とは守護代の代わりをする有力な豪族で領民の統制をはかるもの）



※ 文章について引用・参考文献 岡村吉彦先生制作レジュメ「戦国時代の西伯耆と尼子氏・毛利氏」・史料

一次史料からみる蜂塚の戦い

一次史料の「毛利元就書状」・「杉原盛重感状」には、備後に帰国中の毛利方宮景盛たちを攻撃するなどの反乱を山名藤幸中心の日野衆が起こしていたこと、毛利方杉原盛重軍に8月8日江美城・日野衆は鎮圧されたことが記されています。

富田城落城後も日野衆は尼子再興戦などにも応援にかけつけていました。

江美のこと俣野のことあれこれ

江美城を探る会の1月の講座では板裕生記念館館長の中尾慶治郎先生を講師にお迎えして、様々なことを学びました！



中尾先生の講座では、江美城・銀杏ノ段の発掘調査や試掘についてお話をしてくださいました。銀杏ノ段跡は小江尾川と船谷川に挟まれており、三重の堀切・四重の土塁などが確認されています。江美城よりも土塁や堀等の規模が大きいそうです。

銀杏ノ段跡については気になることがたくさんあるのでこれから探って行きたいと思います！

また、史料からみる「伊勢参り」・旅などについてもお話をしてくださいました。記録に残っているもので、当時の人たちがどの道を通ったのか、地名や費用、持ち物など様々な情報を得ることができるのです。とても興味深い史料がたくさんありました。

※文章について引用・参考文献：中尾慶治郎先生のレジュメ「江美のこと俣野のことあれこれ」

冬の江美城跡



江美城跡の榊形に生えていた菫蘭
綺麗な紫色で、とても可愛いです！



「江美城を探る会」2月・3月講座予定

2月11日（日）

講座内容：「日野郡の山名藤幸の伝承について」

講師：伊田先生
(日南町教育委員会)

場所：愛ベルこうふ（防災・情報センター）2階 14：00～

3月10日（日）

講座内容：「Talk Over Coffee」
江美城クイズ制作・
補修講座・その他報告等

アドバイス：仲田先生



©うえもんくん